

⑥8 東日本大震災・原子力災害伝承館整備事業

受賞機関 福島県 相双建設事務所

キーワード 厳しい施工条件、大空間の実現、国内最大級のバックマリオン

全建賞審査委員会の評価ポイント

東日本大震災・原子力災害の記録・教訓を後世に伝えるための情報発信拠点となる東日本大震災・原子力災害伝承館の整備。施設整備に当り、語り部の活動のしやすさや来場者へのわかりやすさに配慮し、意匠性や機能性を兼ね備えた建築として整備している点が評価された。

1. はじめに

東日本大震災・原子力災害伝承館は、福島県が経験した、地震、津波、原子力発電事故の複合災害の記録と教訓を後世に伝えるとともに、復興に向けて力強く進む福島県の姿や、これまでの国内外からの支援に対する感謝の思いを発信することを目的とした博物館建築である。

当施設は、福島イノベーション・コースト構想の情報発信拠点に位置づけられ、①複合災害の記録などの震災資料の収集・保存、②原子力災害とそこからの復興過程に関する調査・研究、③震災前後やこれからの福島を伝える展示・プレゼンテーション、④原子力災害の経験に基づく研修の4事業を実施している。

2. 事業の概要

平成29年3月に基本構想が策定され、平成29年度に基本設計、実施設計に着手、工期を17ヶ月として平成30年12月に着工し、令和2年5月末に竣工を迎えた。

当施設は双葉町の中野地区復興産業拠点に位置しているが、同地区は令和2年3月まで避難指示解除準備区域に指定されていたことから、避難指示の解除に向けて、敷地周辺では多くの復興関連工事が進められていた。そのため、区域境のゲート管理による時間制約や工事用通路の確保など、厳しい施工条件があったが、地区の連絡調整会議を通じて、関連工事との連携を図り円滑な施工を図った。

3. 事業の成果

当施設は、東日本大震災を伝承する施設として、四方から見られるモニュメンタルな建築を目指し、細部までこだわりを持ったデザインとした。

東側のガラス面については、国内最大級のカーテンウォールの方立てを採用し、内部を高い吹抜けの明るく開放感のある空間としている。

また、シャープな柱梁、現場打ちコンクリートによる螺旋状のスロープ、展示エリアやエントランスホール等

の大空間等を実現するため、躯体の配筋や高強度コンクリートの打設、特殊な形状の鉄骨工事など、細部まできめ細かに検討し、既往技術の創意工夫及び活用により、意匠性と機能性を確保した。

螺旋状のスロープを採用したプロローグシアターなどの展示空間はもとより、広く明るいテラスやエントランスホールなど、語り部が活動しやすい場とすることで、展示資料や映像、語り部の肉声などを通じ、本県特有の原子力災害を含む複合災害を若い世代へと継承する場となっている。



国内最大級のバックマリオン

4. おわりに

当施設は令和2年9月に開館し、まもなく開館1周年を迎えるが、コロナ禍の中においても当初予想を大きく上回る集客となっている。

東京オリンピック・パラリンピックでは、残念ながら海外観光客の受入断念という決断が下されたが、今後も世界中の方々が本施設に訪れ、少しでも福島のことを知っていただけることを期待している。



施設全景 南東側より

賛助会員 (株)惟建築計画、(株)エヌエス工業、(株)トータルメディア開発研究所、松本建設工業(株)、(株)青田電気商会、荒巻建設(株)